

# 令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日: 10月10日(木)

会 場: 吉舎生涯学習センター

参加者数: 38人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>漢方薬に期待している。現在、調査中と聞いたが、具体的に私たちが行動できるのはいつごろになるか。また、土地が必要なので、JAとの連携も必要になると思うがどのように考えているか。</p>	<p>現在、三次市の気候や風土に合ったものを調査している最中である。いつからとは明言できないが、方針が固まり次第、市民の皆さんにお知らせしたいと考えている。JAとの協力も念頭に置いて、協議を進めていきたいと考えている。</p>	
<p>人口減少について、吉舎町においてもこの5年間で103世帯520人が減少した。少子化で小学校や保育所などが閉校・閉所していく現状がある。その対応として、特に周辺部では、保育の問題と教育環境の充実や施設の適切な配置が必要になり、中心部と周辺部を結ぶ公共交通の整備が重要になってくる。吉舎町においては、保育所・小学校・中学校・日彰館高校という他の地域に類を見ない教育環境を有している。特に、1894年に開校し、125周年を迎える日彰館高校は、吉舎町が教育の町であるという位置付け、意識付けを築いてこられた。その存在は、吉舎町の活力に大きく寄与しており、まちづくりの支えになっている。また、奥田元宋先生、奥田小由女日展理事長のふるさとでもあり、教育と文化のまちと言われてきた吉舎町が、元気なまちであり続けるためには、日彰館高校の生徒数を確保し、吉舎町に関わりを持つ青少年が、吉舎町の良さを実感し、更には地域の課題やより良い提案を共に考える機会を増やしていくことが必要であると考えている。そういった中で、日彰館高校の生徒が通学で利用する公共交通の問題がある。交通手段としては、現在、生徒の約65%がJR福塩線を利用している。JR福塩線の1日の運航便数は7往復である。しかし、特に部活動を終えた生徒が、帰りに利用する時間帯の運行については、極めて不便である。18時20分の便を過ぎると21時16分まで便がない。日彰館高校の生徒や町内の住民の皆さんにアンケートを実施した際も、早朝の運行が2便くらいあるが、これを日中に振り替えていただくなどの意見も出た。住民の日常生活に寄り添った運行を希望する。しかし、市がすぐにどうこうできる話ではないことも承知している。市としてJR西日本に対し強く要望してほしい。また、三次市独自の対応の検討もお願いしたい。さらに、高齢者の免許返納を進める中で、周辺部と中心部を結ぶ公共交通の在り方についても改善策の検討をお願いしたい。</p>	<p>・安田小学校が統合という形になったが、昨年度から吉舎小学校の校長先生から安田のダルマガエルを見に行きたいと要望があり、旅費を工面した。これからもつながりをもってほしい。八幡小学校では、奥田小由女先生に直接教えてもらったり、保・小・中・高が一つの町にあり、一緒になって発表してくれるのが特徴である。日彰館高校では顔出しパネルの取組など、子どもたちが努力をしてくれている。</p> <p>・JRをはじめとした公共交通は、日彰館高校への通学や高齢者など、免許を有しない方の重要な移動手段であると認識している。現在、ダイヤを含め、沿線市町で構成するJR福塩線対策協議会において、改善意見をJR西日本に要望しているところである。主な内容は、車両の増結やダイヤの改善、特に上りは混雑している状況などを伝えている。JR福塩線の利便性向上については、市民の皆さんの声を聞きながら今後もしっかりと要望させていただく。</p>	
<p>保・小・中・高があり、保育所長と学校長で集まって話をしている。現在、小・中・高で合同学習を1月にやろうとしている。日彰館高校に行きたいという生徒が出てきていることでその流れができていく。日彰館高校に入って、吹奏楽や剣道をやりたいと言ってくれる。日彰館高校の生徒が増えることで地域も賑わう。また、道徳教育を高めることも重要視している。</p>		

## 令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日: 10月10日(木)

会 場: 吉舎生涯学習センター

参加者数: 38人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>11月9日, 10日とおもてなしということで, 広島大学の短期留学生と交流する。学習した英語を使ってまち歩きをしながら案内して, 実践する。そういった良質な体験をすることは貴重である。また, のぼりを書道部の生徒に書いてもらい, 飾ることも予定している。今後も継続して市からのバックアップをお願いしたい。</p>		
<p>広島県でコミュニティスクールが4月から始まっている。その中で小中学校対象とするかどうか。市は今後どうするのか聞きたい。支援側も迷っている状況である。小・中・高校が同じルールにのった方が良いように思うが。</p>	<p>地域からの「こんな教育をしてほしい」というのを取り入れて教育を進めるのがコミュニティスクールであり, 今年の10月に作り方が国から出された。現在, 検討を進めているところなので, 皆さんからご意見をいただき, 持ち帰って検討していきたいと思う。</p>	
<p>交流と定住環境について, 中国新聞10月5日の県北欄に「ずっと住み続けたいまち本部」を設置し, 移住した人と交流をもたれているという記事が掲載された。移住者の人やUターン者同士の交流会をもちたいと考えており, 交流会の準備会を開催した。30代から40代が4名いるが, 手作りの賑わいをもたらそうということで, きっかけや動機を聞いて今後の取り組み方を考える。悩みを相談できる場所を作りたい。移住者に移住者を呼び込んでもらう。移住者のほとんどが空き家バンクを利用していた。吉舎を選んだ理由としては, 「住みやすい」「何もなくていい」「不自由さを楽しみとしている」「地域の方が丁寧に対応してくれた」「教育が良い」などがあつた。将来, 吉舎移住ネットワークを作ろうと考えている。支援・協力をお願いしたい。</p>		
<p>色々な人と手を取り合って, 足し算ではなく掛け算になるように情報共有をしながら進めていかなければならないと思う。吉舎町の中で話をするというのは大前提であるが, 三次市8つの旧市町村を飛び越えて色々な話ができれば, 他の地域はどうやっているのかなども聞くことができる。そのような関係づくり・ネットワークづくりが必要なのではないかな。</p>	<p>昨年度の三次市総合計画の見直しにより, 市民同士のつながりも含めた「ツナガリ人口の拡大」を新たに重点項目として掲げている。市内と市外や市内の世代や組織を超えた, 内と内がつながる人口を拡大することが市の課題解決や元気づくりにつながっていくと考えている。</p>	
<p>危機管理課の考えていることが, 市民に伝わっていないと思う。今回, 災害時の保険について, 1度は名簿がいると言われたが, その後にやっぱり名簿はいらないと言われた。時間ごとに考えが変わるようでは困る。</p>	<p>昨年の豪雨災害を受け, 災害時などの保険について検討していたが, 現在市が加入している保険で適用できることが分かった。基本的には名簿がいるということであつたため, 名簿の作成をお願いしていたが, 10月頭に説明会があり, 細かく話を聞いたところ, 市が所定の文書を提出すれば, 名簿は必要ないとのことだった。現在, 制度をまとめている最中なので, 正式に文書で出させてもらいたいと考えている。事前連絡で混乱させてしまい申し訳なく思う。</p>	

## 令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日: 10月10日(木)

会 場: 吉舎生涯学習センター

参加者数: 38人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>商業のまちとして栄えた三次市だが、商店が少なくなった。年内に、喫茶店とお好み焼き店が新しくできると聞いており、良いことである。後継者不足の懸念もあるが、商店の活性化については、市としてどのように考えているのか。</p>	<p>新たな起業や販路拡大については、支援制度を設けており、関係団体と連携して取り組んでいる。継承の取組も店舗改修などの支援を行っている。関係機関と連携して活性化に向けて取り組んでいきたいと考えている。</p>	
<p>買い物弱者に対して、移動販売車や交通の便を早急に整備してもらいたい。</p>	<p>移動販売車については、エーコープが企業とJAと一緒に進められているが、JAの組合員を対象にされていると認識している。コンビニなども取組を始めており、今後増えると思う。状況を踏まえて、どういったところに支援が必要か、総合的に検討していきたいと思う。</p>	
<p>買い物ができないことに困っている。高齢者になると生活できない状況になっている。市からも移動販売車の助成を積極的にやってほしい。JAと協議し、全地区で支援してもらいたい。</p>		
<p>南天山城に上がる道を整備されているが、県の史跡としても重要な史跡であり、吉舎町の観光資源としても市からも力を入れてほしいと思う。将来的には、山城の上に建物を復元すれば、観光資源として活性化につながるのではないか。</p>	<p>南天山城は市の史跡となっている。現在、寺町廃寺跡の発掘調査を行っているが、復元にはお金がかかる。全国的に有名な史跡であっても復元ではなく、看板や説明をこの辺にありましたとわかるように置くのが主流となっている。道路の整備については、難しい状況である。地元で管理をいただいております、感謝している。</p>	